2025 年 8 月 8 日(金)9:00 から CRT スタジオで収録

馬里邑(まりむら)れい作「最後の兵士―誰にも流されなかった小野田少尉」
KKロングセラーズ、2025年8月1日刊を読む

開倫塾
塾長　林明夫

１．(１)この 8 月は、第二次世界大戦が終了して、80 年目に当たります。そこで、本日の「開倫塾の時間」では、足利市在住の作家、馬里邑れい先生の第 40 冊目の作品で、8 月 1 日に発売された、「最後の兵士ー誰にも流されなかった小野田少尉」KK ロングセラーをご紹介し、小野田さんの生き方を通して、戦後 80 年を振り返りたく思います。

(２)小野田さんは、日本が敗戦を迎えたことを知らず、フィリピンのルバング島で、29 年間任務を遂行、1974 年 3 月に帰国なさいました。

(３)任務を解除されない限り帰国はできない、という強い意志を持っていたため、小野田さんを発見し説得に当たった鈴木さんは、小野田さんの上官だった谷口さんを探し出し、説得し、ルバング島に同行。小野田さんに任務解除の命令書を口頭で伝え、手渡し、納得してもらい、帰国となりました。

２．(１)帰国後、親族や近所の方々から、何を今頃おめおめとなどと、心無い非難を受け、いたたまれず、1 年後に、ブラジルで農業をしている兄を頼り、ブラジルに移住。

(２)ゼロから始めた牧畜業を 10 年かけて軌道に乗せました。

(３)ブラジル移住 10 年後に、日本からの報道で、金属バットによる親族を殺めた事件など、青少年の心の闇を知り、何かできることはないかと考え、福島県塙(はなわ)町に、有志とともに、小野田自然塾を開設。

３．(１)半年はブラジルで牧場経営、半年は、小野田自然塾で青少年育成と日本各地での講演会活動と、30 年間過ごされ、2014 年 4 月 1 日に、92歳でご逝去なさいました。

(２)馬里邑先生は、4 年間の地に足をつけた取材を継続、中学生でもわかる、わかりやすい文章で、小野田さんの一生を紹介しようと、本書を執筆なさいました。

(３)流れるような文章でとても読みやすく、スラスラ読めます。一文一文が、絵画を見るように頭に描け、それが続くと映像となり、動き始めるような気がします。

４．（１）夏目漱石の「吾輩は猫である」や、志賀直哉の「小僧の神様」、太宰治の「走れメロス」も、一つひとつの文章が、絵画のように思い描くことができ、文章が重なると、映像のように動き出す。馬里邑先生のこのノンフィクション作品も、全く同じと感じられました。是非ご一読ください。

（２）馬里邑先生は、1995 年から、開倫塾主催の「童話大賞」の審査員にご就任。この活動が認められ、開倫ユネスコ協会が、2001 年に日本ユネスコ協会連盟から正式承認されました。2001 年からは、毎年、開倫ユネスコ協会文芸大賞「童話大賞」の審査委員長をお務めいただいております。

（３）その馬里邑先生が、40 冊目のご著書を終戦 80 周年の８月１日にご出版なさいましたので、皆様にお読みいただきたく、僭越ではありますが、ご紹介させていただきます。

2025 年 8 月 13 日（水）17 時 55 分